

## 文化財保護に関する国際情報の収集・研究・発信 (②セ01-12-2/5)

### 目 的

文化財の保護制度や施策の国際動向及び国際協力等の情報を収集、分析して活用するとともに、国際共同研究を通じて保存・修復事業を実施するために必要な研究基盤整備を行う。また研究機関間の連携強化や共同研究、研究者間の情報交換の活発化、継続的な国際協力のネットワークを構築し、その成果をもとにアジア諸国等において文化財保存・修復事業を推進する。

### 成 果

1. 国際会議等出席：下記の会議等に参加し、文化財の保護制度や施策の国際動向及び国際協力等の情報を収集した。2012年6月24日～7月6日 世界遺産委員会（サンクトペテルブルク）、7月20日～23日 ASEAN+3文化協力ネットワーク会合（フィリピン）、12月3日～7日 無形文化遺産政府間委員会（パリ）世界遺産委員会については、研究発表の形で報告した。9月4日、二神葉子「第36回世界遺産委員会報告」東京文化財研究所 総合研究会。2013年3月15日、二神葉子「第36回世界遺産委員会報告」第12回文化遺産国際協力コンソーシアム研究会。
2. 文化遺産（動産文化財）保護についての調査・研究：アメリカ国内には2万館を超えるミュージアムが存在し、指定品クラスの日本の美術作品を収蔵している美術館も少なくないが、文化行政を担当する省庁は存在せず、独自の方法で文化財が保護されている。アメリカ各地の美術館関係者に文化財保護の現状について聞き取り調査を実施するとともに、ワシントンDCに本部を置く文化財保護関連組織や国立の美術館・博物館にて調査を実施した。日程と主な調査先：1月26日～2月2日 AIC（アメリカ文化財保存修復学会）、AAM（アメリカ博物館協会）FEMA（連邦緊急事態管理庁）、Heritage Preservation（アメリカ文化遺産保護機構）、ナショナルギャラリー、フリーア&サックラーギャラリー、国立アメリカ歴史博物館、国立アメリカ・インディアン博物館、フィリップス・コレクション等。将来的に汎用性の高いデータベースとして活用するために、本年度の情報収集の成果は既存のデータベースと連携できる形で集積した。
3. 対訳法令集シリーズの刊行：韓国、ミャンマー、フィリピンの3ヵ国について、文化財保護関連の基本的法令の条文を和訳し、対訳法令集シリーズとして刊行した。
4. 研究会の開催：染織品は世界中で幅広い時代の作品が存在し、人類共通の文化遺産として安定した状態で保存されることが求められるが、研究者や専門的な保存修復技術者は絶対的な数が不足しており、国内外の専門家による情報共有と連携強化が急務の課題と言える。そこで以下の研究会を開催し、50名ほどの参加者を交え活発な研究交流を行った。染織品保存修復に関する研究会「古代から現代へーウィットワース美術館の染織コレクションとその保存修復」アン・フレンチ氏（イギリス、マンチェスター大学ウィットワース美術館）、討議司会：石井美恵 10月19日

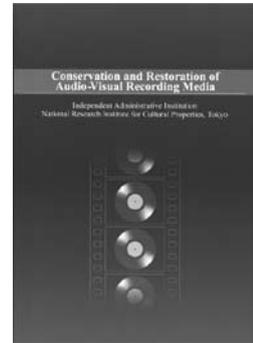
刊行物：・『各国の文化財保護法令シリーズ[15] 韓国』東京文化財研究所 13.3・『各国の文化財保護法令シリーズ[16] ミャンマー』東京文化財研究所 13.3・『各国の文化財保護法令シリーズ[17] フィリピン』東京文化財研究所 13.3・『国際資料室蔵書目録』東京文化財研究所 13.3・『世界遺産の動向と課題—第36回世界遺産委員会—』東京文化財研究所 13.3

### 研究組織

- 友田正彦、川野邊渉、山内和也、加藤雅人、江村知子、境野飛鳥、邊牟木尚美、島津美子、鈴木環、安倍雅史、佐藤桂、新免歳靖、渡部妥子、高多加奈子（以上、文化遺産国際協力センター）、今井健一朗、石井美恵（以上、客員研究員）、二神葉子（企画情報部）、宮田繁幸（無形文化遺産部）

Conservation and Restoration of Audio-Visual Recording Media (①保修07の一環として実施)

本書は、2011（平成23）年3月に発行した、「音声映像の記録メディアの保存と修復」の英訳版である。各種音声・映像記録メディアの紹介及び保存状況や修復事例の紹介から始まり、行政の立場から文化庁美術学芸課の岡部氏、保存する立場の現場から東京国立近代美術館フィルムセンターのとちぎ氏、セルロイドハウス横濱館の松尾氏のお二方、さらには、修復のワークショップを通じて皆さんに映画フィルムの楽しみ方を広めておられる大阪芸術大学の太田氏、レコード音源の修復作業に携わっておられるログオーディオの坂本氏、加えて、ベルリン技術経済大学で写真の修復を教えていらっしゃるカースティン・バーテルス氏に、それぞれの立場から講演頂いた。



『各国の文化財保護法令シリーズ [15] 韓国』(②セ01の一環として実施)

本シリーズは先行の「文化財保護関連法令集」を受ける形で、2008（平成20）年度より発行を続けているA5判冊子である。諸外国での文化財保護制度を法的な面からアプローチする目的で、まず原文を収集し、研究の第一歩としてその和訳を試みている。

本冊子は、韓国の文化財保護法を和訳したものである。巻末には韓国語の原文も併せて掲載している。(2013年3月刊行、158ページ)



『各国の文化財保護法令シリーズ [16] ミャンマー』(②セ01の一環として実施)

本冊子はミャンマーの考古遺産法とその改正法、及び文化遺産地区保護保存法とその改正法、施行規則を和訳したものである。巻末にはミャンマー語の原文も併せて掲載している。(2013年3月刊行、167ページ)



『各国の文化財保護法令シリーズ [17] フィリピン』(②セ01の一環として実施)

本冊子はフィリピンにおける文化遺産に関する最新の法令である2009年国家文化遺産法とその施行規則、及びフィリピン史を通じた国民のナショナリズムの向上に関する法律を、原文の英文から和訳したものである。巻末には英語の原文も併せて掲載している。(2013年3月刊行、179ページ)



『世界遺産の動向と課題—第36回世界遺産委員会』（②セ01の一環として実施）

本書は、2012（平成24）年6月24日から7月6日にサンクトペテルブルクで行われた第36回世界遺産委員会についての報告書である。（2013年3月、40ページ）



『国際資料室蔵書目録 Library Catalogue of the International Cooperation Center Archives』（②セ01の一環として実施）

本冊子は、2012（平成24）年度に国際資料室で受け入れてデータベース化した1040点（和漢書188点、洋書852点）の資料及び国際資料室で所蔵する雑誌482種類を掲載した目録である。（2013年3月刊行、170ページ）



『敦煌壁画の保護に関する日中共同研究 2012』（②保修08の一環として実施）

本報告は、平成24年度に開始された東京文化財研究所と敦煌研究院の共同による第6期「敦煌壁画の保護に関する日中共同研究」（5年間）の第2年目活動内容の概略を示すものである。平成24年度は、3回の現地共同調査（8月、11月、1月）と、中国側の来日研修（6月）を実施した。共同調査の成果として「第285窟壁画の顕微鏡による表面観察」「第285窟壁画の分光反射率測定」「携帯型蛍光X線分析装置による第285窟壁画に使用された材料調査」の報告3編を掲載した。また文化財保存修復学会（6月）で発表した「敦煌莫高窟第285窟壁画の劣化要因の検討—模擬壁画を用いた劣化実験—」と日本建築学会（9月）で発表した「敦煌莫高窟内の壁画の劣化に関する研究—塩の析出による壁画の劣化の評価—」を掲載した。



『東南アジア諸国等文化遺産保存修復協力 平成24年度成果報告書』（②セ02の一環として実施）

平成24年度に東南アジア諸国等文化遺産保存修復協力として実施した、カンボジア及びタイにおける文化遺産保存修復協力の内容、並びにインドネシア、モンゴルでの協力に関する事業成果をまとめたものである。（2013年3月刊行）

